

ひろば・ちがさき

No. 820

2008年11月21日

市民会議・市民自治市議団

茅ヶ崎市茅ヶ崎1-1-1

市役所内 0467(82)1111

市民会議・市民自治市議団

中嶋	てるお	86-5643
須田	ゆずる	86-8788
岸	正明	87-8766
小磯	妙子	52-6731
和田	清	67-5980

行政拠点地区の大規模な整備・再編は必要でしょうか？ 市役所新庁舎建設だけで86億円！

行政拠点地区再整備計画：2008年3月に出された「公共施設整備・再編計画」の中で、行政拠点地区の再整備として、市役所

市民文化会館、総合体育館、中央公園、市営駐車場、茅ヶ崎警察署の再配置も含めた計画で、特に**注目は、市庁舎の建て替え問題**

議会では、「公共施設整備対策特別委員会」で、市内16箇所の公共施設の再整備や未利用地の活用について検討する中で、市役所の建て替え問題についても議論がされました。2008年2月に提出した中間報告書では、方向性(耐震改修、建て替え)が一致しなかった議論は併記するかたちで示されています。

市民の意見は：2007年4月の市長・市議会議員の選挙の争点として大きく取り上げられることなく、市民の多くが知らないまま計画が進みました。

2007年10月、計画案に対し実施されたパブリックコメントには、「建設から30余年の市庁舎をなぜ建て替えるのか」

「現庁舎が耐震上問題なら、早急な耐震工事が先ではないか」「建て替えありきではなく、耐震・大規模改修の工法・経費について多くの検討が必要」「長期的財政見通しが甘い」など
建て替えには慎重な意見が多く出されました。

現在進められている計画は：新しい庁舎(※1)を西側駐車場に建設し、現在の庁舎は取り壊し。

建設に当たっては「公民連携」による民間資金の導入ということ、庁舎跡地の定期借地等による試算運用、中央公園の機能拡充など広範な計画が検討されています(※2)。

見通しの甘い財政計画

新庁舎建設費用は86億円(旧庁舎解体費用を含まず)。経費の平準化をはかるため、民間資本の導入を図るといふ計画ですが、経済の先行きが不安な現在、長期的な民間資金の導入や市債の発行が本当に可能でしょうか？財政問題などきちんと議論されないまま計画だけ

が進んでいます。

必要なのは・機能・人材の充実であり、ハコモノをつくることではありません。教育や福祉など必要なところに予算が回らなくなったり、自治体の財政破綻にもつながる可能性があります。もっと市民のニーズにあった検討が必要で。

※1「市役所本庁舎あり方市民提案会議」一般公募市民と関係団体の代表による14人の委員が、庁舎のあるべき姿や機能、複合施設化などについて検討しています。

※2「行政拠点地区再整備事業手法検討会議」

☆ご意見をお寄せ下さい。